

箕面「山とみどりのフェスティバル」に出展！！ ～子供たちが「水源の森」ジオラマづくりに挑戦！！～

11月3日（祝）、箕面の自然環境の保全などに関わる市民団体やNPOなどの活動紹介などを目的に、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場として、「山とみどりのフェスティバル」が開催されました。10月の日曜日を2週続けて襲った台風の影響で、箕面大滝までの滝道が通行止めとなり、メイン会場の片隅には被害を受けたスギの根株等が集積され、会場は予定よりも狭くなるなど影響を受けましたが、来場者は昨年を上回る2,500名が訪れました。

当センターでは、「箕面体験学習の森」、「森林環境教育研修」や「ニホンジカ被害対策」などの日頃の活動を紹介します。パネルを展示するとともに、「水源の森」ジオラマづくりや木製コースターへの絵描きなど、30組を超える子供たちや家族連れに体験していただきました。主な材料がイタドリの穂、ケヤキの樹皮、水苔と聞いた大人たちからは驚きの声も聞こえました。40分程度の作業を終えた子供たちは、「難しかったけど、楽しかった。」などの感想と、自分の作品に満足した顔や、どや顔を作品と一緒にカメラに収めさせてくれました。「ニホンジカ被害対策」のパネルに見入っていたお父さんは、「箕面の山がこれほど被害を受けているとは知らなかった。捕獲等に携わる皆さんの頑張りに期待したい。」などの励ましもいただきました。



箕面国有林で大阪青山大学と中央工学校OSAKAが野外実習を実施！！

大阪青山大学

11月4日（土）、大阪府箕面市にある大阪青山大学の学生7名が、「地球環境論」の講義として箕面国有林内にある「箕面体験学習の森」とその周辺で野外実習を実施しました。当日は、幼・壮・老齢の天然林や人工林を巡る中で、間伐の必要性やシカによる被害が地球環境にもたらす影響などを担当教授やセンター職員から説明を受け、真剣にメモ取りや写真撮影を行った後、間伐体験と樹名板も設置し、冬山で心地よい汗をかいていました。



中央工学校OSAKA

11月30日（木）、建築士などを目指している中央工学校OSAKA（大阪府豊中市内の専門学校）の学生14名が、箕面国有林の勝尾寺園地周辺で野外学習を実施しました。この取組は、普段から扱っている建築材料の木材が、どのような環境の中で育っているのかや、森林の状況などを学生たちに見せたいとの講師からの依頼を受けて、毎年実施しているものです。当日は、職員から森林の機能やシカの被害対策等について説明を受けた後、林内を散策中に台風被害により倒れたり折損したスギやヒノキを目の当たりにするなど、これまで見たことのない光景に驚きの声を上げていました。

学生からは、「樹木が大変厳しい環境の中で育っていることが、よく解った」などの感想が聞かれました。

